

基調報告

大阪公立大学 教授 伊地知紀子



ジャーナリスト 徐台教



日韓国交正常化60周年と在日コリアン

シンポジウム

本国志向・在日志向 再考 -21世紀 在日コリアンの アイデンティティを考える-

映画監督 全辰隆



短編映画 『客観的恋愛談(객관적 연애담)』

韓国国立国楽管弦楽団 カヤグム首席 文良淑



二十五弦カヤグム演奏『Doraji』

2025年 6月7日(土)

山梨県立大学 飯田キャンパス B館 講堂

目 次

シンポジウム趣旨文	1
プログラム	2
プロフィール	4
映画・演奏紹介	5
シンポジウム発表資料	6
基調報告－伊地知紀子	7
文良淑	13
全辰隆	14
自由論題	16
金裕賢/韓在賢/文光喜	17
加藤恵美/高橋優子/趙基銀/鄭米鎮	36
金 誠/孫長熙/劉賢国	63
地図・キャンパスマップ	

オンラインURL/QR

自由論題 1

<https://x.gd/QYLrl>



自由論題 2

<https://x.gd/vZvm2>



自由論題 3

<https://x.gd/XMrrc>



シンポジウム

映画上映／カヤグム演奏

<https://us06web.zoom.us/j/85766948835?pwd=MXxM0KnYZE2IIPPhigQLR0GmIVtcWV.1>



短編映画「客観的恋愛談」(2020, 21分)

限定公開リンク

<https://youtu.be/qZ0vghFHlag>



<大会サイト>

<https://isks.org/japan/japanconference>

シンポジウム趣旨

いま在日コリアン社会は、大きな変化を迎えている。植民地支配に由来する在日の「特別永住者」は30万人を下回り、累積の日本国籍取得者は40万人に達しつつある。もちろん「帰化」の増大は、同化や風化が同じ程度ですすんでいることを意味するわけではない。むしろ三世以下の世代で「本国回帰」や「先祖帰り」の傾向も目立っている。暮らしの拠点を韓国に求めたり、二重国籍を維持する若い世代も少なくない。「越境する在日」が一つのトレンドとして定着しているのである。

一方で韓国が民主化され、経済発展も成し遂げ、日韓間の格差が大きく縮まる中、韓流ブームが起こり、日韓を行き来する旅行者数も爆発的に増えた。このような時代の流れの中で、在日コリアンの意識はどのように変化したのだろうか。これが今回のシンポジウムの視点の一つである。

日韓国交正常化60年を迎える現在、50年前と何が変わり、何が変わっていないのか。古くて新しい問題であるはず

の在日コリアンのアイデンティティを改めて論じたい。

今回のシンポジウムでは以上の問題意識を踏まえ、まず、本学会会長の伊地知紀子がこの間の在日コリアン社会の変化と課題について提起する。さらに発題者として3人の在日コリアン三世(民族器楽の第一人者である文良淑国立国楽管弦楽団カヤグム首席、韓国に「永住帰国」した徐台教記者、そして日韓を行き来しながら両国の社会と人々の考え、心を映画で描く全辰隆監督)をお招きした。3人は在日三世という背景を持ちながら、それぞれ本国、もしくは本国と日本をまたぎながらその活動の場を求めている。もちろん自らの意志で選択し、実行し、それぞれの分野で経験と実績を築いてきた。何が彼らにそのような選択をさせたのか。

シンポジウムでは、以上の4名の報告を軸に、さらに韓国から来日した研究者の見方やフロアーからの意見も交えながら、現在置かれている在日コリアンの状況と意識、今後の課題について議論する。

9:30 受付開始

【午前の部】 10:00 自由論題発表 (次頁) [教室B302] [教室B301] [教室B207]

12:00 国際高麗学会 日本支部 総会 [教室B207]

【午後の部】 13:00 [講堂]

映画上映 『客観的恋愛談(객관적 연애담)』 全辰隆監督作品

文 良淑 二十五弦カヤグム演奏『Doraji』 [チャング奏者]李有眞

シンポジウム

『日韓国交正常化60周年と在日コリアン

本国志向・在日志向再考 -21世紀在日コリアンのアイデンティティを考える-』

モデレータ

基調報告

報告1

報告2

報告3

コメント1

コメント2

文 京洙

伊地知 紀子

文 良淑

全 辰隆

徐 台教

任 君三

朱 成敏

立命館大学 名誉教授

大阪公立大学 教授

国立国楽管弦楽団カヤグム首席

映画監督

ジャーナリスト

山梨県立大学 国際政策学部 准教授

山梨県立大学 国際政策学部 講師

【自由論題】



自由論題 1

B302 (3階) [司会] 梁仁實 (岩手大学)

「在日コリアンに関する社会運動における「支援／被支援」関係再考：朝鮮学校支援を中心に」
 「韓国系ニューカマー第二世代における「個人志向」の検討」
 「民族アイデンティティの変遷－在日コリアンと多文化社会との比較から－」
 「朝鮮学校卒業生にとっての＜祖国＞の意味－フォローアップ調査から－」

金裕賢 大阪公立大学
 韓在賢 京都大学
 文光喜 愛知朝鮮学園
 山本かほり 愛知県立大学



自由論題 2

B301 (2階) [司会] 金友子 (立命館大学)

「地域の視点から民闘連運動を捉えなおす：1980年代に焦点を合わせて」
 「朝鮮半島出身被爆者支援活動から考える被爆体験継承の意味」
 「韓国民主化運動からみれば在日朝鮮人のアイデンティティ－在日韓国青年同盟を中心に－」
 「民闘連の運動と在日朝鮮人アイデンティティ 「同化」と「主体(性)」をめぐる」

加藤恵美 帝京大学
 高橋優子 大阪公立大学人権問題研究センター
 趙基銀 東京外国語大学海外事情研究所
 鄭 栄鎮 大阪公立大学



自由論題 3

B207 (2階) [司会] 池貞姫 (愛媛大学)

「呂運亨とスポーツ関係者の解放政局－建国青年治安隊の組織と朝鮮体育同志会の活動に着目して－」

金 誠 札幌大学

「『連絡船は出てゆく(連絡船の唄)』から捉える戦後日本の記憶の溝」

孫長熙 大阪大学

「ディスレクシアの読解能力向上を即したハングルタイポグラフィ要素に関する研究－機能的フォント開発における文字形態の弁別性－」

劉賢国 筑波技術大学

伊地知紀子

Ijichi Noriko

1966年生まれ。大阪市立大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学、博士(文学)。大阪公立大学大学院文学研究科教員。国際高麗学会日本支部会長。専門は、朝鮮地域研究、生活世界の社会学、文化人類学。著書に、『和解をめぐる市民運動の取り組み—その意義と課題』(明石書店, 2022, 共著)、『阪神都市圏の研究』(ナカニシヤ出版, 2022, 共著)、『街場の日韓論』(晶文社, 2020, 共著)、『消されたマッコリ。—朝鮮・家醸酒(カヤンジュ)文化を今に受け継ぐ』(社会評論社, 2015, 単著)、Rethinking Representations of Asian Women: Changes, Continuity, and Everyday Life(New York : Palgrave, 2015, 共編著)、『日本人学者 가 본 제주인의 삶』(済州大学校耽羅文化研究所, 2013, 単著)

文良淑

Moon Yang-suk

1974年奈良県生まれ。在日コリアン3世。韓国・中央大学校音楽大学韓国音楽科卒業、同大学院修了。現在、東国大学校博士課程在学中。国立国楽管弦楽団カヤグム首席奏者。ソウル大学校・東国大学校講師、文良淑カヤグムアンサンブル音楽監督として活動。National Chinese Orchestra Taiwan、The Orchestra ASIA Japan、国内外の多くの楽団と共演。「語るカヤグム」「Beyond」「弦の旅路」などの独奏会を9回開催。KOREA FANTASY 欧州ツアー、UN戦争勇士追悼音楽会、仁川空港「光の旋律」音楽監督など多彩な舞台に参加。2013年文化観光部長官賞、韓国作曲賞大賞作品の初演など受賞歴も豊富で、独自の音楽スタイルを築いていると高く評価されている。

全辰隆

Jeon Jin-ryong

1989年秋田県生まれ。在日コリアン3世。ソウル国立大学 スペイン語文学部 卒業。韓国芸術総合学校 (Korea National University of Arts, Korea) 専門士(修士課程)映画科 演出専攻卒業。高校生の頃に韓国語を学ぼうと韓国映画を見ているうちに映画を好きになる。秋田高校を卒業後、韓国語と韓国の文化を学ぶため渡韓。その後ソウル大学に進学、自ら映画を作りたいと思い、在学中に映画サークルに加入し映画制作を始める。本格的に映画制作を学ぶため、韓国芸術総合学校へ進学し映画演出を専攻する。韓国ソウルで14年間生活し、2022年から東京在住。

徐台教

Seo Tae-gyo

1978年群馬県生まれ。在日コリアン3世。朝鮮半島情勢を伝えるニュースレター『コリア・フォーカス』編集長。主な取材対象は南北関係、朝鮮半島問題、韓国政治など。1999年から途中3年を除き韓国に住み、人権NGO代表や日本メディアの記者として朝鮮半島問題に関わる。2015年韓国に「永住帰国」と同時にジャーナリストとして独立。現在は日本メディアへの出演・寄稿の他に、Yahoo!ニュースエキスパート、YouTube『徐台教の韓国通信』などでも記事を配信。ソウル外国人特派員協会(SFCC)正会員。2022年「第7回鶴峰賞言論部門優秀賞」受賞。

【お問合せ】

国際高麗学会日本支部
isksj@isks.org

山梨県立大学 国際政策学部総合政策学科・徐正根
tarson@yamanashi-ken.ac.jp



李有眞 (いゆじん)

チャンゴ奏者。国立国楽管弦楽団打楽器副首席。中央大学校韓国音楽科卒業。ソウル市無形文化財パンソリ古法履修者。韓国ヤングム協会会員。ソウル芸術大学校講師。国立伝統芸術高等学校講師。



文良淑『DORAJI』
2022年リリース
25絃カヤグムソロアルバム

演奏曲 『Doraji』

「日本と北朝鮮、そして現在の韓国で私が過ごした時間はかけがいのないものでしたし、私自身にとっても大きな変化をもたらしました。唯一変わらなかったことは、常に一緒だったカヤグムと、カヤグムに対する私の気持ちだろうと思います。このCDは私の初めての作品で、民謡をテーマに制作した25絃カヤグムの曲を収録したものです。初めてとなるCDにどの曲を収録すべきか随分悩みましたが、原点にかえり、私だけの物語を込めようという思いから、韓国に来て初めて演奏した曲『Doraji』をタイトルにしました。」

—— 文良淑、アルバム『DORAJI』紹介文より